

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年7月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホームはやひと
所在地	鹿児島県伊佐市大口青木3023番地14 (電話) 09955-22-2333
自己評価作成日	平成31年4月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、協力医療機関(大口温泉リハビリテーション病院)、特別養護老人ホーム等との医療福祉ゾーンを形成している。旧大口市から委託業務としてスタートしたグループホームである。職員は理念に沿ってケアしている。一人ひとりを大切にして暮らせる家を目指し、入居者を家族の一員として、当たり前の暮らしを支援している。近所の小学校周囲を日常の散歩コースとして、子供たちとの交流もあり、学校行事に参加している。管理者・職員は、家庭的なホームを目指し、意欲的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは伊佐市街地から少し離れた静かな田園地帯に、母体となる病院・特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウス等とともに隣接して建てられている。入居者は全員女性で、身体的にはほぼ自立歩行が可能であるなど比較的軽度者が中心であり、1ユニットでゆったりと過ごせる環境である。

職員は「あなたの思いを大切にし、あなたらしく生活できるよう支援します」という理念のもとに、入居者一人ひとりの思いやこれまでの習慣を大切にして、コミュニケーションを密に取りながら入居者に向き合い、日々の気づきを通して安心して過ごしてもらえるように努めている。地域との関わりでは、文化祭に作品を出展したり、小学生との茶摘み、特養での踊りや大正琴の演奏などに参加して、地域との交流に取り組んでいる。

職員は可能な限り外部研修に参加し、参加できなかった職員には復命研修を周知徹底させるなど、職員のスキルアップにつながる体制が構築されている。やむを得ない事情で緊急に勤務できなくなった場合でも、勤務可能な職員でカバーしあい、勤務調整してお互いに協力しあえる体制が確立され、働きやすい職場環境づくりを通じて、サービスの向上やケアの充実を目指している。母体である病院の医師との連携も十分に図られており、隣接していることで指示を得やすく、安定した医療連携体制が確立されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年7月12日

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を基盤にしながら、毎日のミーティングの中で理念を唱和し、事業所理念の実践を確認し合っている。独自の目標を持って取り組んでいけるように努めている。	法人全体の理念・基本方針、重要事項説明書やパンフレットにも記載しているホームの理念を廊下に掲示し、毎日のミーティングで唱和している。職員は入居者の思いを大切にしながら日々のケアに取り組み、年1回職員個人の目標を設定・評価して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の茶摘みや文化祭などに作品を展示したり、ボランティア訪問・体験学習受け入れなどで地域の方との交流ができるように努めている。	法人で自治会に加入し、校区の文化祭等に作品を出展して見学に出かけたり、小学校の茶摘みで子供たちと交流を図っている。また、隣接の特養で大正琴演奏や踊りを見たり、地域の人に習字を習ったり、ボランティアの高校生と一緒にミニ運動会や作品作りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の中学の体験学習の受け入れや小学校との交流・学生ボランティア訪問の中で、認知症の理解や関わり方が学べる機会になるように取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の実施結果や取り組み内容・日常のサービス内容・ヒヤリハット改善策の実践状況報告等について報告している。また、意見交換の中で得た情報を参考にしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。入居者・元市福祉事務所勤務の有識者・民生委員・市職員等が参加し、入退居状況・行事・ヒヤリハット・地域密着型連絡会・防災訓練・外部評価の結果等について報告しており、サービスの向上に活かしているように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス連絡会の中で研修会の実施や事業所内での取り組み内容・外部研修の内容等を伝え、他事業所とも意見交換を行い外部の意見を取り入れながら日頃のケアに役立てている。	介護保険の代理申請や区分変更申請、介護度の疑義等で市役所へ出向くことが多く、法人内で確認・解決できないことは問い合わせで正確な判断を仰いでいる。市が実施する実地指導を当ホームが最初に受けるなど、市との協力関係を良好に築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し、定期的に委員会を開催、研修会やミーティングの中でマニュアルに添ったケアが実践できているのか検討、身体拘束廃止に向けての基本方針についても周知徹底できるように取り組んでいる。また、言葉等の見えない拘束にも意識を高めている。	現時点において身体拘束の事例はないが、2か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、入居者毎に状況確認を行っている。研修会も定期的に開催されており、復命は職員会議で伝達され、書面確認の際には署名・捺印して周知徹底に努めている。言葉による拘束には特に配慮しており、不適切な場面ではその都度注意するように心がけ、安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の企画する勉強会や施設内の研修を行い、何が高齢者虐待になるのか具体的に学び、個別の認識度を確認すると共に、日々行っているケアが該当していないか委員会やミーティングで確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通して制度の理解に努めているが、現在までに制度の活用事例は無い。法人の広報誌にも掲載し、利用者家族をはじめ地域住民に配布している為、制度の啓発に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や施設体験を含め、十分に説明を行い入居決定していただいている。退居時にも本人、家族と十分に話し合い、退去後にも生活に不安が残らないよう、関係機関と共に連携を密に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画説明の他、アンケート用紙にも意見を記入していただき、相談のあった内容は貴重な意見として捉え、管理者を含む職員全員で検討して可能な限り要望に副えるようにしている。	入居者・家族等の意見は、入居時をはじめ面会時や計画作成時など、あらゆる場面を通して把握に努め、職員間ではミーティングの中で情報の共有を図っている。うまく伝えられない入居者の場合は、職員が思いを受け止めるように心がけ、家族の意見にも迅速に対応し、可能な限り要望に沿えるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティングや職員会議等で出た意見や提案を一緒に検討しながら、結果を代表者に伝え必要な場合改善するように努めている。	年1回職員の個別面談の場を設け、日頃からコミュニケーションを密にしてストレス解消を図っている。入居者に対してより良いケアを実現するために、職員からの意見や提案にはできるだけ早期に対応し、働く意欲の向上や質の確保につながるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、努力結果に応じられるような体制をとっている。また、各研修会への参加の推奨、資格取得なども積極的に勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を作成し、ミーティングや職員会議を活用しながら研修を行い、外部研修で学んだこと等も参加できなかった職員には伝達講習を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と2ヶ月に1回、地域密着型連絡会を実施しており、研修会内容についても伝達講習を行っている。また、研修職員の養成を行い、年に1回、全職員が受講できるような体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>人居相談時から計画作成担当者が担当し、入居前の面接・入居時に把握するように努めている。入居後は担当者が信頼関係の中から、本人の思いやニーズを引き出し「私の姿シート」を作成、ミーティングの中で意見交換している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談開始から計画作成担当者が自宅や施設を訪問し、入居に当り心配事や要望などを聞いて安心して入居できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に表出される希望だけでなく、関りの中から見えてきたニーズにも目を向け、適切なサービスの選択ができるように情報提供・対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の意思を尊重しながら望まれるようなケアの方法を検討したり、本人の特技や季節の行事の食品作り等を生活の中に取り入れ、一緒に行うことで双方が学び合える関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や過去の出来事などを教えていただき、家族と共に本人の思いに応じていく方法を検討し実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の話題や家族からの情報などで、馴染みの人や場所に触れ、本人の思いに応じていく方法を検討。誕生会への案内や手紙や絵で元気な様子を定期的に発信して遠方の家族も安心できるように支援している。	入居時に「私の姿と気持ちシート」を記入してもらい、これまでの生活の中での馴染みの人や場所について把握している。家族や知人から荷物や手紙が届いた場合は、返信を促すこともある。墓参りは家族の協力を得て行われている。当ホームでしかできないことは何か、という視点で支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特徴を把握し、入居者同士が気兼ねなく安心して過せるように配慮しながら、トラブル等で孤立してしまわないように適切に介入している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利勝者が退所しても新しい環境に慣れるまでは退所先の病院等を訪問し、必要な情報を提供したり、家族と共に情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から得た情報などをミーティングで相互に確認し、本人の思いに添えるようにしている。	日々の生活の中での関わりや申し送りノート、「私の姿と気持ちシート」等を通して、また夜間帯での様子も確認し、本人の思いや希望について模索しながら把握に努めている。問題行動が見られることがあっても、「その人らしく生きている」と解釈して、本人の気づきを大事にしながら思いに沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時から入居後の面会時などあらゆる機会を通して、本人と家族から把握するように努めてくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の仕方や生活歴を尊重し、一人ひとりの能力を活かしながら、その人らしい過ごし方ができるように配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望や意見を把握し、専門職の意見も参考にしながら、その人らしい過ごし方ができるように配慮している。	本人・家族の思いや意見は、入居時や面会を通して把握し、3か月に1回の計画作成時には主治医や現場職員の意見も参考にし、本人がより良く暮らすことができるよう配慮された計画を作成している。状態変化時や必要時にはその都度見直し、臨機応変に対応できるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の健康状態や日常生活がわかるように具体的に記録している。また、情報を共有しながら、個々の職員の気づきを含め、ケアの実践・計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況に柔軟に対応できるように努めている。また、医療連携体制を活用した定期的な看護職員による健康管理など柔軟な支援ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動等を利用して、これまで続けてきた本人の力が発揮できるように働きかけ、その人らしさを尊重しながら充実した過ごし方が続けられるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃受診されていた医療機関とも情報を提供し合いながら適切な治療が受けられるように支援している。	入居者の殆どがかかりつけ医を母体の病院に変更している。月1回の訪問診療や必要時の外来受診も可能であり、夜間は病棟連絡を通して医師が来所し、常に情報を報告して指示を得たり、病状が進行した場合はすぐに入院できるなど、安心した医療連携体制の下に支援ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>大口温泉リハビリテーション病院と業務委託契約を結び、日常の健康管理を行うとともに常時対応可能な支援体制の整備に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は職員が付き添い、入院後も定期的に訪問して医療スタッフとの情報交換を行い安心して医療サービスが受けられるように支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から終末期について希望を聞いて医療が必要になった場合や疾患の悪化に伴い、本人・家族の希望に添えるように支援するとともに、方針の共有に努めている。疾患の種類によっては、早い段階で家族と終末期のあり方を確認している。</p>	<p>入居時に希望を聞き、終末期のあり方について確認しているが、本人の状態や家族の気持ちの変化に合わせて、その都度意向を確認することは課題としている。病状については医師から家族に説明し、3か月毎に実施する追跡調査の結果に基づいて家族とも検討しているが、母体の病院で過ごすことを希望するケースが多い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が救命救急講習を受講している。緊急時の対応については定期的に勉強会や講習を受け、急変時は職員全員がマニュアルに沿って行動できるような体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所独自の地震・豪雨マニュアルを作り訓練に活かしている。また、法人の総合防災訓練・事業所独自の訓練を定期的に行い、入居者にも参加していただいている。豪雨・地震についても法人の危機管理計画に沿って行動できるようにしている。</p>	<p>法人の危機管理計画に沿ったマニュアル「火災(地震)発生時の初期動作」を作成している。法人の総合防災訓練には地域住民も参加し、ホーム独自の訓練は2か月に1回実施している。ホームは2階にあるため非常口として隣接の特養までスロープが設けてあり、7月下旬にはシートを使用した避難訓練を実施する予定である。非常食は栄養士が管理・チェックを行い、法人で一括して備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項説明書にも明記し、職員会議の中でも個人情報の保護法や守秘義務について研修を行っている。日常生活の中でもプライバシーが損なわれないように個別のマニュアルを作り定期的に見直しを行っている。	法人で接遇研修を実施したり、個人情報保護や守秘義務についての研修はホームの年間計画にも組み込まれて実施している。入居者の個別マニュアルを作成して個別の対応方法を記録し、年1回見直してプランにも反映させている。ホーム内での張り紙や広報誌の写真では、できるだけ入居者が特定されないような配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しながら、失語症の勉強会なども行い、非言語的コミュニケーションなどを大切に、納得した判断ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や状態に合わせて柔軟に対応している。毎日のミーティングの中で業務優先になっていないか確認し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望や家族の意向に応じ、好みの服装などができ、おしゃれをすることで生活に楽しみを持っていただくように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を実施し、誕生会など希望の献立を作り、個々の力量に応じて職員と一緒に準備や後片付けを行っている。食事も職員と楽しく会話ができるようにしている。	栄養士が作成した献立をもとに、朝・昼は食事の全てをホームで作り、夕食は隣接の厨房から一部支援を受けている。同法人の養護老人ホームに芋掘りに行ったり、誕生会は入居者の誕生日に合わせて開催し、希望の献立とともにおやつを作ったり、ちまき作り・梅干し作り等を職員と一緒にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居の希望を基に献立を検討し、法 人の管理栄養士に栄養バランスなど を検討してもらいメニューを決定し ている。食事摂取状況や水分摂取 量・体重測定を定期的実施し、観 察している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力の状態に合わ せて毎日食後の口腔ケアを行っ ている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	入居時にオムツ外しの同意を得て、 個々の生活パターンを把握しながら プライバシーに留意し、尿漏れ予防 や放尿対策等には個別に排尿行動パ ターンチェック表を活かし、トイレ での排泄を基本にしている。	日中はオムツを使用せず、夜間はリハ ビリパンツを装着しながら、時間誘導 で可能な限りトイレで排泄できるよ う支援している。ポータブルトイレの利 用はなく、排泄記録は職員だけが閲覧 できるように事務机に置き、プライバ シーの確保に留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	看・介護表で排泄状態の把握に 努め、水分補給・食物繊維や毎 日のラジオ体操・室内歩行等に 努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の希望に応じ、毎日でも入浴ができるような体制をとり、一人ずつゆっくりと入浴できるよう支援している。また、冬場は希望があれば就寝前に足浴なども実施できる体制をとっている。	週2～3回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴することができる。1人ずつ誘導し、年間を通して湯船に毎回お湯を張っている。利用者が入浴をためらう場合、順番や時間をずらしたり、対応する職員を変更するなど一人ひとりの意向を尊重して、無理強いせず諦めずに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して安眠できるように配慮し、思い思いの休息の方法や個々の睡眠パターンに応じて柔軟な対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作り、定期的に勉強会を行っている。また、個々の薬の種類や効果・副作用等を把握し、個々の能力状況に合わせた服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や現在の能力に応じて、家事の役割を担っていただいたり、趣味や興味のあるものに取り組めるように環境を整え、活動し易いように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で表出される想いに目を向け、家族やボランティア等の協力を貰いながら散歩や気になる場所など個々の希望に応じながら支援している。	ボランティアや家族の協力を得てホーム周辺の外出・散歩をしたり、法人の玄関先のバラを見学したり、家族と一緒に弁当を作って花見に出かけたりして、入居者らしい暮らしを保ち、意欲や自立が保てるように支援している。全員が一緒に外出することは難しいので、何回かに分けて外出できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力量に応じ、売店で日常品を買ったり、外出の機会には自ら品物を選んだり支払いをしたりできるように支援している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時の電話のとりつぎや、年賀状・暑中見舞い等年間計画を立てて家族や友人と連絡ができるように支援している。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音やつけっ放し状態がないように配慮し、職員の大きな声や行動が不安を招かない様に気をつけている。カーテン等で直射日光等へ配慮とともに季節感のある食べ物や行事にちなんだ食品作りなど五感で感じられるように気配りを行っている。</p>	<p>高い天井と天窓のあるホールは明るく、入居者・職員ともにゆったりと過ごすことができ、対面式の台所からは入居者の様子がわかりやすく声かけしやすい。広い廊下では手すりに掴まって自由に歩行でき、運動を兼ねている。壁には入居者の作品等が、居室の入口には季節の花の折り紙が飾られ、居心地のよい環境となっている。トイレは共用で2か所あり、内鍵をかけると出られなくなるのでカーテンを閉めて使用している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子やソファを置き、一人になれる場所や親しい同士で個別でくつろげる場所を用意し、気兼ねなく活用できるように気配りを行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人の大切な物や馴染みの生活用品、装飾品等を持参していただき、居心地よく、安心して生活していただけるように努めている。</p>	<p>居室は間取りが広く、ベッド・タンス・3段ボックス・テーブル・ハンガーラック・洗面台が備えられている。入居者らしく暮らせるように写真・花・ぬいぐるみ・位牌等が家から持ち込まれ、新聞を毎日購読している入居者もいる。衣類は家族が季節毎に入れ替えて持ち帰り、家族の面会も週1~2回ある。テレビ持ち込みは長時間視聴する事で居室に籠りがちになるが、事情を説明し要望があれば柔軟な対応をとっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各、居室には自宅から持参された暖簾をかけたり、造花や折り紙などで目印にしている。トイレや浴室・洗面所・廊下には手摺りを設置し、居室内は、歩行状態に合わせ動線を短く、残存能力が維持できるように環境を整えている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない